

Fuji Champion Race Series Round 1

2023.4.1 SAT - 2 SUN

Formula Beat
Round 2



従来のF4 (JAF-F4) が今年から改称され、フォーミュラ・ビート (F-Be) として新たなスタートを切ることとなった。舞台を鈴鹿から富士に移した第2戦の予選では、初参戦の上部和久がベテランの佐々木孝太をコンマ4秒差で従え、初めてのPPを獲得。3番手には徳升広平、4番手にはハンマー伊澤がつけた。

カートレースからステップアップし、昨年からはフォーミュラに乗り始めた上部にとって、未知のポジションからの発進だったにも関わらず、決勝のスタートは完璧。佐々木も好スタートを切ってTGRコーナーのイン側からアプローチをかけるも、まったく動じることなく、上部はトップを守り抜く。3番手は徳升のままだが、4番手にはチームメイトのハンマーをかわし、ひとつ順位を上げていた大宮賢人が。しかし、2周目に入って間もなく、ハンマーは抜き返す。

1周目こそ団子状態だった上部、佐々木、徳升だったが、2周目に入るとそれぞれ単独走行に。ファステストラップを連発して、上部は差を広げ続け

ていたが、ちょうど折り返しの7周目に佐々木のタイムが上回るように。逆襲もあるかも……と思わせた直後に佐々木はスローダウン。「またシャフト折れました。だいぶ近づいていって、抜けないまでもプレッシャーはかけられたかも」と、昨年の最終戦から続くリタイアを嘆く。

佐々木のリタイアでリードを8秒に広げた上部だったが、守りに入ることなく走り続けた。最後は13秒差とし、「ずっとブッシュしていました。これで勝ち方は覚えましたので、(併せて出場する) FIA-F4にも活かしたいと思います。F-Beには被っていない、たしか8戦中4戦に出ることになりそうです」と上部。その言葉にもあるように、これが初優勝となった。

2位が徳升で、3位はハンマー。4位は9番手スタートだった河野靖喜が獲得。1周目のうちに6番手まで上がり、6周目には大宮をキャッチアップ。「スタートから良かったですし、前の佐々木さんがいなくなったのもあって、運が良かったです。気づいたら4位でした」と語る河野は、ジェントルマンクラスの優勝ももぎ取っていた。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Formula Beat

Rank No.	Name
1	81 上部 和久
2	47 徳升 広平
3	19 ハンマー 伊澤
4	55 河野 靖喜
5	20 大宮 賢人
6	40 富田 自然



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Gentleman

Rank No.	Name
1	55 河野 靖喜
2	11 植田 正幸
3	9 KAMIKAZE
4	34 三浦 勝
5	8 米谷 浩
6	48 渡邊 義人

TOYOTA GAZOO Racing 2023 Yaris Cup West Japan Series Round 2



昨年は東日本シリーズと西日本シリーズのWタイトルだったこともあり、100台を超えた富士のYaris Cupは、今年は西日本シリーズだけであっても75台のエントリーを集めた。

予選はA組、B組の2つに分けられ、まずA組トップはCANDY TAKEKAWAで、チームメイトの小野田真俊を従えた。続いてB組のトップは沖ノ井宣隆で、本来、東日本シリーズをメインとするドライバーが上位を独占。これに西日本シリーズのディフェンディングチャンピオン、神谷裕幸が続いた。なお、PPIはコンディションにも恵まれ、沖ノ井のタイムを上回ったCANDYが獲得。

決勝で好スタートを切って、TGRコーナーへのホールショットを決めたCANDYながら、Yaris使いの精鋭たちがそのまま逃げることを許してくれず、2周目のTGRコーナーではCANDY、沖ノ井、神谷がスリールで飛び込み、トップにはアウトからアプローチをかけた神谷が浮上。その後は、CANDY

と小野田の猛攻を何度も喰らいながら、神谷は冷静にガードし続けて、最後までトップをキープ。今季初優勝を飾るとともに、ポイントリーダーにも就くこととなった。「昨日、ロングもいっぱいやったので、タイヤとブレーキをコントロールしながら走っていました」と神谷には余裕の展開だったよう。

そしてチーム内闘争は、CANDYが小野田をコンマ02秒差で振り切り、2位を獲得した。沖ノ井がこのふたりに続いてゴールしたものの、スタート進行違反のペナルティで5秒を加算され、無念の9位に。繰り上がって4位は、予選7番手からバトルを重ねながら順位を上げていた黒田保男だった。

CVTクラスでは、塚原啓之が優勝、総合でも29位に。「CVT特有の制御に手こずって、なかなかうまく走れなかったんですが、いいバトルはできたので、すごく楽しかったです」と塚原。そして予選55番手以下のドライバーによるコンソレーションでは、山崎じんがトップでチェッカーを受けている。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup

Rank No.	Name
1	神谷 裕幸
2	14 CANDY TAKEKAWA
3	3 小野田 真俊
4	19 黒田 保男
5	888 増井 大輔
6	111 千葉 翔太



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup CVT

Rank No.	Name
1	54 塚原 啓之
2	230 たねぞう
3	48 荒川 美恵子
4	20 相馬 拓音
5	887 木村 友香



昨年は小山美姫がチャンピオンに輝き、大いに話題を集めたフォーミュラリージョナル。その小山がシリーズからの卒業を果たしたことで、新たなチャンピオン争いが繰り広げられることとなった。その開幕戦の舞台として、今年も富士スピードウェイが選ばれた。

決勝は3レースで競われるが、予選は2回のみ行われ、Q1のベストタイムでレース1の、セカンドベストタイムでレース3の、そしてQ2のベストタイムでレース2のグリッドを、それぞれ決定。3レースともにPPを奪ったのは、昨年のランキング2位の小川颯太だった。

レース1決勝で、2番手から平木湧也が好スタートを決め、小川を抑えてトップに浮上。ふたりで一騎討ちの様相を呈し、常にコンマ差の争いが続いていた。最初にトップ争いが動いたのは、6周目のTGRコーナー。小川がアウトから平木をかわし、順位を入れ替える。しかし、平木も負けてはいない。バックマーカーの出現で、小川がわずかにペースを鈍らせた隙を見逃さず、最終ラップのコカコーラコーナーで再逆転を果たし、見事デビューウィンを飾った。「予選は少し苦戦しましたが、レース1に向けてセット変更したのがいい方向に行きました」と平木。3位は澤龍之介が獲得した。そしてジェントルマンクラスでは、辻子依旦が初優勝。一時は7秒にまで広がった差を、YUKIに最後はコンマ5秒にまで詰められたが、「タイヤの状態の違いと、最後やっぱり大事に行きました」と狙い通りの展開だったことを明らかに。



RESULT リザルト FR-Race 1

Rank No.	Name
1	62 平木 湧也
2	98 小川 颯太
3	3 澤 龍之介
4	27 Liam Sceats
5	97 岩澤 優吾



RESULT リザルト MASTER Class

Rank No.	Name
1	45 辻子 依旦
2	18 YUKI
3	23 YUGO
4	2 林 雅弘

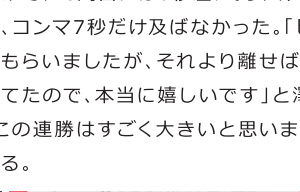


レース2は、小川颯太が今度こそスタートを決めて、トップでTGRコーナーに飛び込んだものの、勢い余ってブレーキがロック。すぐに復帰できたが、4番手に後退。代わってトップには予選より、ひとつ順位を上げた澤龍之介が躍り出る。そのまま逃げ続けた澤ながら、6周目に5秒加算の指示が下される。スタート手順に違反があったためだ。これで俄然チャンスが、2番手に戻した小川に訪れる。なんとか5秒以内に収めれば……、そんな小川の思いとは裏腹に、澤は差を広げ

RESULT リザルト FR-Race 2

Rank No.	Name
1	3 澤 龍之介
2	98 小川 颯太
3	62 平木 湧也
4	97 岩澤 優吾

続けて、13周目には6秒差に。ラスト2週のペースは小川が優ったが、コンマ7秒だけ及ばなかった。「ピットからペナルティの情報ももらいましたが、それより離せばいいと。しっかり差をつけて勝てたので、本当に嬉しいです」と澤。ジェントルマンクラスは、「この連勝はすごく大きいと思います」と語る辻子依旦が制している。



RESULT リザルト MASTER Class

Rank No.	Name
1	45 辻子 依旦
2	23 YUGO
3	2 林 雅弘
4	18 YUKI

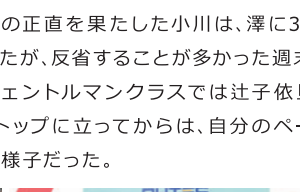


レース3は、3番手の岩澤優吾が抜群のスタートを決め、PPでチームメイトの小川颯太にも迫ったが、そこは小川が意地でトップをキープ。後続のバトルを尻目に、ひとり逃げていく。2番手を岩澤、澤龍之介、平木湧也、リアム・シーツが競い合うも、中盤にはシーツが脱落し、そして8周目には澤が岩澤を抜いて2番手に浮上。澤もやがて単独走行となる一方で、なおも続いたのが岩澤と平木の3番手争いだった。なんとか表彰台に立ちたい岩澤を、平木は13周目の1コーナーでパス。平木は3戦連続で表彰台をゲットした。そして三度目の正直を果たした小川は、澤に3秒差で勝利。「やっと勝てましたが、反省することが多かった週末でした」と反省も欠かさず。

RESULT リザルト FR-Race 3

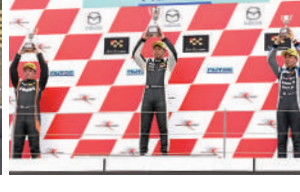
Rank No.	Name
1	98 小川 颯太
2	3 澤 龍之介
3	62 平木 湧也
4	97 岩澤 優吾
5	27 Liam Sceats

ジェントルマンクラスでは辻子依旦の連勝をYUKIが阻止し、「トップに立ってからは、自分のペースで走れました」と大喜びの様子だった。



RESULT リザルト MASTER Class

Rank No.	Name
1	18 YUKI
2	45 辻子 依旦
3	23 YUGO
4	2 林 雅弘



ROADSTER CUP 1.5/1.6/1.8/2.0 Round 1



富士チャンピオンレースで人気のナンバーつきロードスターによるワンメイクレース。今年もロードスターカップは、排気量と改造範囲の違いによって分けられた5クラスで争われる。予選で最速は1.5OPENの山本謙吾で、決勝にはPPから臨むことになった。

決勝でも総合のトップは1.5OPEN勢で競われた。山本はスタートに出遅れ、佐藤文昭にトップを明け渡すも、1周目のうちにヘアピンでパス。そのまま逃げ続け、一時は8秒3にまで広げたが、終盤になって「電子スロットルの制御がおかしくなって」7周目に佐藤に抜かれてしまう。それでも、すぐに復活して最終ラップのGRスーブラコーナで再逆転。「序盤のうちにギャップが築けたので、なんとかかなりました」と山本。

総合4位で1.8のウィナーは神谷誠。スタート直後に中村英貴の先行を許すが、徐々に差を詰め、5周目の1コーナーで逆転、「前に出られてからは後ろを見ながら、クルージングみたいな感じでした」と語った。

総合6位で2.0の優勝は、孤軍奮闘の高橋裕史。予選11番手から「5台ぐらい抜けたので、満足しています」。そして1.6は竹田幸一郎と野木強の一騎打ちに。「違うクラスの方が前でバトルしていて、そのおかげで着いていけて、勝つことができました」と語るのは竹田だ。

そして最激戦区となった1.5CHALLENGEは、18台がエントリー。予選でもトップだった松原泰世が、決勝でも速さを発揮。吉野直人と石塚崇宣が激しく2番手を争い合うのを尻目に、逃げ続けて8秒差の圧勝となった。「富士はストレートが長いので、真後ろにつかれると勝負を仕掛けられてしまうから、できるだけ早いうちに差を広げておきたいな、というのがありました。後ろがバトルをしてくれたので、あとは自分のペース保って、ゴールまで運ぼうという感じでした。速さの秘訣ですか？もちろん練習ではあるんですが、シミュレータもやるので、サーキットに来られなくても家で練習しているので、その繰り返しかもしれません」と松原。



RESULT リザルト 1.5 Open

Rank No.	Name
1	23 山本 謙吾
2	20 佐藤 文昭
3	10 国分 務
4	14 小倉 徹
5	112 池島 美紅
6	7 茂木 文明



RESULT リザルト 1.5 Challenge

Rank No.	Name
1	155 松原 泰世
2	118 吉野 直人
3	28 石塚 崇宣
4	50 田中 悠太
5	46 北田 辰男
6	24 近藤 順



RESULT リザルト 1.6

Rank No.	Name
1	34 竹田 幸一郎
2	27 野木 強



RESULT リザルト 1.8

Rank No.	Name
1	91 神谷 誠
2	15 中村 英貴
3	2 渡邊 達也
4	88 山田 健介
5	84 大矢 明夫
6	35 松波 太郎



RESULT リザルト 2.0 Open

Rank No.	Name
1	101 高橋 裕史

Porsche Sprint Challenge Japan Round 1 & 2



国内最速のワンメイクレースといわれるポルシェカレラカップジャパンのステップアップカテゴリーである、ポルシェスプリントチャレンジジャパンは、今回が開幕戦。全4大会8戦で争われ、すべての予選、決勝は日曜日に行われる。予選でベストタイム、セカンドベストタイムともトップで、連続PPとなったのは呉良亮。2018年の86&BRZ王者で、現在はGR86/BRZプロシリーズを戦うドライバーだ。2番手はディフェンディングチャンピオンのKEN YAMAMOTOで、3番手はMasa TAGA。そして2台がエントリーのGT3-IIでは橋村剛が、そして3台がエントリーのGT4ではポルシェのジュニアドライバー平安山良馬が、ともに2戦ともPPを奪っている。

決勝はローリングスタートでの開始に。YAMAMOTOがグリーンシグナルの点灯と同時に鋭いダッシュを見せるも、イン側のラインをしっかりトレースして呉はトップを譲らず。1周して戻ってくると、早くも1秒4の差をつけ、そのままアクセルを緩めず走り続ける。終盤のYAMAMOTOのTGRコーナーでのオーバーシュートもあり、最後は14秒差の圧勝に。「突き放せるだけ突き放そうと、躍起になって走っていました」と呉。

GT3-I勢に混じって、激しいバトルを繰り広げ、クラスでは圧勝となったのが橋村だ。「どうしてもパワーが違うので、抜くまでには行かなかったんですけど、楽しかったです」とは素直な印象だろう。そしてGT4では「自分との戦い」を制して、平安山が圧勝で、まず1勝目を挙げた。

Round 1



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	90 呉良亮
2	1 KEN YAMAMOTO
3	84 Masa TAGA
4	31 OOKA
5	77 MUSASHI
6	78 七ツ矢 孝



Winner



2nd



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	26 橋村 剛
2	88 ヤマダ ヒロシ



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 平安山 良馬
2	86 牧野 善知
3	51 山口 達雄

「どれだけ引き離せるか、やってみる」とは、呉良亮が師と仰ぐ、レジェンド竹内浩典からかけられた言葉だった。これを呉は忠実に実践。「けっこうブッシュしましたから、疲れました(笑)」と語るほど。最後はまた、14秒差の圧勝となった。今後に関しては、「次のSUGOは86レースとかぶっちゃって出られないんですが、その次の富士と鈴鹿は出ようと思っています」と語っていた。

2位はKEN YAMAMOTOながら、スタートに出遅れて、いったんは3番手にまで退いていた。しかし、3周目のコカコーラーコーナーで小林賢二を

パス。さらに小林はMasa TAGAにも抜かれ、表彰台に立つことはかなわなかった。GT3-IIは橋村剛の連勝となったが、序盤の接触で終始単独走行に。「車には問題なかったので、頑張ってアタックし続けましたが、後味悪くなっちゃいましたね」と反省することしきり。

GT4も平安山良馬が2連勝。「最初のうちは思ったよりタイムが上がらなかったんですが、いろいろ試しながら、最後にタイムを上げられたのは良かったと思います」。若き精鋭がこの1年でどれだけ成長するか注目だ。

Round 2



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト GT3-I

Rank No.	Name
1	90 呉良亮
2	1 KEN YAMAMOTO
3	84 Masa TAGA
4	76 高木 啓一郎
5	9 小林 賢二
6	16 岸本 裕之



Winner



2nd



RESULT リザルト GT3-II

Rank No.	Name
1	26 橋村 剛
2	88 ヤマダ ヒロシ



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト GT4

Rank No.	Name
1	71 平安山 良馬
2	51 山口 達雄
3	86 牧野 善知

86&BRZ FUJI 86BRZ Challenge Cup Round 1



N1車両の86とBRZによる86&BRZ、そしてナンバー付きのチューニングカーによる富士86BRZチャレンジカップは、今年も混走で競われる。今年から86&BRZには新型のGR86での参加が認められ、竹内浩典が自ら乗り込んだ。すると、ひとり2分を切ってレコードタイムを大幅更新。「ストレートは速いよ。でも、コーナーがね。50kg、前のより重いから。ストレートとコーナーの立ち上がりで稼いでいる感じ」と竹内は語る。

その後ろにはJP-2Sの梅原雄一と中澤卓也が並び、総合4番手には86&BRZのチャンピオン松本晴彦が。ススム ナカムラを僅差で従えた。JP-3Sでは勝又臣楠が、JP-4SではYOSHIKIがそれぞれトップだ。

決勝は完全に竹内のひとり舞台に。1周だけで1秒2の差をつけ、最後は10周レースで24秒差の大勝となった。「これから、これをレンタルしてお客様に乗っていただくんですが、タイヤが最後まで大丈夫か、ブッシュしていました。もうそろそろレンタル開始の予定です」と竹内。

総合2位は、JP-2Sの梅原と中澤で競われた。スタートで前に出たのは中澤ながら、2周目の1コーナーで梅原が前に。その後もつかず離れずのバトルを

重ねるも、最終ラップの100Rで喫した梅原のミスの中澤が見逃さず。ワンチャンスを活かした格好だ。「もともとカートを小学校の頃からやっていたんですけど、すごく楽しいデビューレースになりました。今年はFCR-VITAにもシリーズで出る予定です」と中澤。

86&BRZは竹内が別クラス扱いのため、優勝は松本となった。早々に独走体制に持ち込んだと思いきや、中盤になって差を詰めてきたのがナカムラだった。その勢いのままナカムラは6周目に前に出るも、焦らず続いた松本は最終ラップに再逆転。「後ろの方も速かったんで、無理しないで先に行かせて、隙があればと思っていました」と。JP-3Sは「スタートをやらかしちゃいました」と語りながらも、堀舜之が逆転で優勝。そして「違うクラスとのバトルも楽しかったです」と語るYOSHIKIがJP-4を制した。

RESULT リザルト GR86

Rank No.	Name
1	52 竹内 浩典



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	0 ススム ナカムラ
3	53 森田 幸二郎
4	222 松下 浩平
5	57 土田 扶門
6	50 野田 宗男
7	54 伊藤 俊哉



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 2S

Rank No.	Name
1	26 中澤 卓也
2	700 梅原 雄一
3	241 鈴木 貴大



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 3S

Rank No.	Name
1	72 堀 舜之
2	28 鈴木 康史
3	33 五十嵐 剛木
4	726 勝又 臣楠
5	43 常盤 岳史
6	616 伊東 康宏
7	133 伊藤 一憲



RESULT リザルト Fuji 86BRZ Challenge Cup 4S

Rank No.	Name
1	23 YOSHIKI
2	17 吉成公一
3	184 SAITO KYOU

